

第3回関東放送シンポジウム

Collaborating with 信越

～関東大震災発生から100年、 災害時のラジオの存在意義を語りあう～

主催：総務省関東総合通信局・信越総合通信局
一般社団法人 日本コミュニティ放送協会 関東地区協議会

参加
無料

ラジオは、1925年に我が国初のラジオ放送が開始されて以来、長い歴史を誇るメディアであり、大規模自然災害による長時間の停電発生時などにおいては、大切な情報発信ツールとして認識されております。

関東大震災発生から100年が経過した本年（令和5年：2023年）、社会のデジタル化が進み、放送を取り巻く環境が急速に変化しております。本シンポジウムは、デジタル時代における「災害時のラジオの存在意義」を見つめ直す機会として開催いたします。

開催日時

令和5年3月15日（水）14時～16時

開催方法

会場＋オンライン視聴（ハイブリッド開催）

□ 会場：TKP新橋カンファレンスセンター 13B



先着30名様にて会場参加

※感染症対策のため会場参加を制限しております。

【最寄り駅】

都営三田線 内幸町駅 A5出口 徒歩1分

JR山手線 新橋駅 日比谷口 徒歩7分

東京メトロ銀座線 新橋駅 7番出口 徒歩7分

東京メトロ 霞ヶ関(東京都)駅 C4 徒歩8分

□ オンライン視聴：Zoomウェビナー

申込方法

申込み期限：令和5年3月10日（金）13時まで

下記の申込み用URLまたは右のQRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/AkNJKWww5TBMDdFd6>



- ・ 会場収容人数の都合、登録完了しても、ご希望に応じられない場合がありますので、ご了承ください。会場参加の方には当局から改めてお知らせします。
- ・ オンライン視聴の方は、3月13日13時を目処にURL&資料をお知らせします。

<シンポジウムに関する連絡先>

総務省 関東総合通信局 放送部放送課（ラジオ担当） 電話：03-6238-1705

開会挨拶

14:00～

関東総合通信局長 新井 孝雄

関東放送シンポジウムの取組紹介

関東総合通信局 放送部放送課



基調講演

14:10～

タイトル：「情報生産機関としてのコミュニティ放送」

概要：コミュニティ放送は情報を生産する機関。情報が情報を生み出し、一人ひとりの小さなアイデアが情報になります。聞くのではなく語りかけることです。東日本大震災でみられたラジオの古くて新しい機能を紹介します。

新潟経営大学 経営情報学部スポーツマネジメント学科
大内 斎之 准教授



事例報告

14:25～

タイトル：「長岡市の災害時における情報発信について」

概要：災害時の情報発信として活用している「緊急告知FMラジオ」等、情報伝達ツールや長岡市の取り組みを紹介します。

新潟県長岡市 危機管理防災本部
金子 元昭 課長

ディスカッション

14:40～

テーマ：関東大震災発生から100年、災害時のラジオの存在意義について

(モデレーター：関東総合通信局 放送部長 今井 力)

討論者

武蔵大学 社会学部メディア社会学科 松本 恭幸 教授



パネリスト (50音順)

新潟経営大学 経営情報学部スポーツマネジメント学科	大内 斎之 准教授
新潟県長岡市 危機管理防災本部	金子 元昭 課長
東京都文京区 危機管理室 防災課	鈴木 大助 課長
日本コミュニティ放送協会 関東地区協議会	鈴木 伸幸 会長

参加者からのQ&Aコーナー

15:40～

閉会

15:55